

# 患者さんへの“もてなし”を店舗と電子薬歴「PharnesⅢ-MX」で実現。

垂水誠貫堂薬局（兵庫県神戸市）

大阪湾に面した山陽電鉄・滝の茶屋駅の改札口を出て、緩やかな坂を上るとわずか数分、和風の大きなタペストリーがかかっている店舗があります。そのお洒落な店構えにひきつけられて、思わず足を止めてしまおうのが垂水誠貫堂薬局です。薬局の看板がなかったら、純和風の飲食店と勘違いされそうな洒落な店構えです。開業から18年目になる2014年1月1日、向かいにあった旧店舗から現在地への移転を契機に、同薬局は保険薬局用電子薬歴システム「PharnesⅢ-MX」を導入しました。運用開始から8か月が経った今、管理薬剤師の山本智史先生は、薬局における患者さんへの“もてなし”と保険薬局用電子薬歴システム「PharnesⅢ-MX」について熱く語ってくださいました。



**和風の落ち着いた外観も内装もすべては地域の患者さんのため。**

垂水誠貫堂薬局の外周りには、格子戸や風鈴だけでなく濡れ縁までありますが、それだけではなく中に一歩足を踏み入れると、さらに驚かされます。「あわただしい日常の中でも、落ち着いてもらえる空間を作りたいと思っていたので、

夜はライトアップされ、薬局とは思えない趣きを見せる垂水誠貫堂薬局。



店内に入ると右側に受付と一般的な待合室があります(写真右)。一般的とはいっても受付のカウンターは一枚板、壁は「しっくい」と、こだわりを見せています。左側の畳敷きの待合室は和風の落ち着いた雰囲気がいっぱい。心を和ませてくれます(写真上)。



という山本先生には患者さんへの心遣いが感じられます。

木材を主体にした和風の内装にしました」という山本先生の言葉通り、柱や梁、扉などには風格のある古材が使われています。「高齢の患者さんが多いので、『昔、自分が住んでいた家と同じや』と言ってくれる人も多くて、とてもうれしいです」と山本先生は人柄そのままの優しい笑顔で語ります。

店内の床は板張り、すべて温水床暖房になっています。「温水床暖房は冬場の空気の乾燥を少しでも防ぎますから」

待合室は一般的な待合室と畳敷きの待合室が2つあります。畳敷きの待合室は腰を下ろすにはちょうど良く、「ゆっくり話をした」という患者さんたちのためにつくりました」と言う山本先生ですが、もう1つ大きな理由として「感染症が流行しやすい冬場に、一般の患者さんと感染症の患者さんが同じ待合室で待つだけでなくことは、以前から申し訳なく思っ

ていました。だからどちらの患者さんにも安心して待っていただける待合室を作りたいからです」とおっしゃいます。さらに、同薬局にはなんとキッチンもあります。薬局にはそぐわない感じもしますが、それについて、山本先生は「私のところは糖尿病内科の門前薬局なので、以前から栄養指導のニーズが高く、糖尿病の患者さんを対象に料理教室を開いて、栄養面の指導をしたいと思っているんです。それがキッチンを設けた理由です。今準備中ですが、これも薬局としてすべきことの1つではないかと思っています」と熱く語ります。

**「PharnesⅢ-MX」の導入は法改正対応の早さや優れた機能。**

同薬局では開業以来、ずっと他メーカーのレセコンや薬袋発行機を使ってきましたが、2、3年前から電子薬歴の導入を検討し始めました。各メーカーで電子薬歴のデモを見せてもらい、医療機器の展示会で情報を収集していました。さらには薬局を経営しているご友人のところでは、稼働している「Pharnes」を実際に触らせてもらったそうです。

地域とともに  
医療の発展を  
目指して

## 家族のような方たちですから 在宅患者訪問指導にも力が入ります。

垂水誠貫堂薬局 管理薬剤師 山本 智史先生

—どんな考えで薬局を運営されていますか。  
一言でいえば、「患者さんに優しく」ということ  
です。患者さんのニーズを的確に把握し、きめ細かく  
対応するという事です。それは開業してからず  
っと心がけてきたことです。



### 垂水誠貫堂薬局

開局 1997年11月  
営業時間 月～金 9:00～12:00  
16:00～19:30  
土 9:00～12:00  
休診日 日曜日・祝日  
職員数 薬剤師3名 事務員4名

私がここに開業したのは、製薬会社のMRをして  
いた時に、大学の先生から「ここにクリニックを開  
業しますから、一緒にやりましょう」と声をかけら  
れたのがきっかけでした。しかしこの場所は、私に  
とってはまったく縁のない町でしたから、薬局経営  
を順調にして生き残っていくためには、どうすれば  
いいかということを考えなければならなかったのだ  
です。その結果、個店が生き残るためには地域密着は  
ごく当たり前のことで、その上で差別化が必要とい  
うことに気がつきました。店舗へのこだわりはその  
1つなのです。

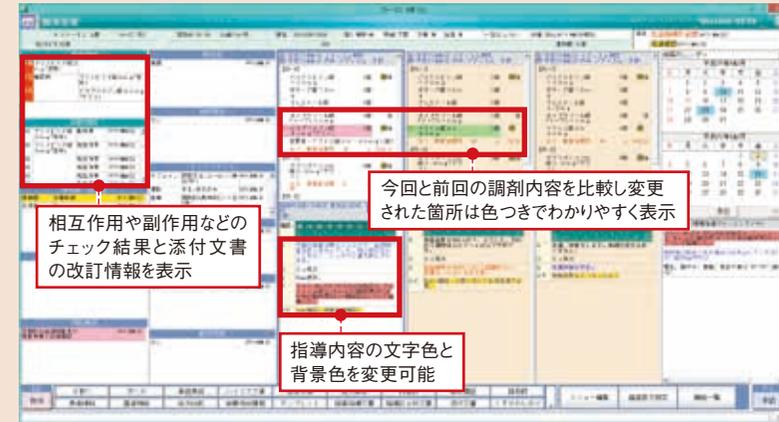
—在宅患者訪問指導にも力を入れていらっしゃる  
そうですね。

今、25人くらいの方がいらっしゃると思います。  
以前は元気で歩いて来られていましたが、寝たきり  
になって来られなくなったんです。私にとっては、  
家族のようにお付き合いをさせていただいてきた人  
たちばかりですから、できる限りのことをしようと  
思いました。

そういう方たちは話し相手として、私の訪問を楽  
しみにしていらっしゃいます。同様に来局される方  
の中にも話を聞いてもらいたいと思って来る方もい  
ます。もちろん時間が許す限り話をうかがいます。  
なぜならそれも私の仕事ですから。

### PharnesⅢ-MXの入力画面

患者さんの薬歴表紙、鑑査情報、過去薬歴などを一度に表示できるので、処方鑑査、  
薬歴作成がスムーズに行えます。



### その他の主な特長

- 便利な初回／再来テンプレートがあるので薬歴記入が簡単。
- 疑義照会テンプレートを活用して疑義照会結果をかたんに薬歴に記入。
- 服薬指導プランニングメモを活用して服薬指導もスムーズ。
- 今回と過去4回分の処方内容、指導内容を横並びで表示でき、処方の変遷を容易に確認。
- レセコンと薬歴が一体型なので、処方内容の修正が発生した際も、処方修正がスムーズ。



山本先生はこうした電子薬歴の情報収集や体験を繰り返し、比較検討した結果「PharnesⅢ-MX」を選定されました。その理由について、次のように語ります。  
「新規に薬価収載された医薬品があった時や、法改正などが実施された時の対応などについては、メディコムが圧倒的に早かったのです。これが遅いと、レセプト請求にも支障を来たすわけですから、非常に重要な要素でした。これはソフト開発力の差なのだろうと思いますね」  
2つ目の理由は、「PharnesⅢ-MX」

の薬歴の記載がSOAP形式になっていること。今、大学ではSOAP形式による記録方法で教えているので、若い薬剤師にとっては実際に薬局などで勤務したとき、その方が使いやすいし、私のように電子薬歴を初めて使う人間にとっても、抵抗感もなく安心して使えると感じました」と山本先生は言います。  
最後に評価してくださったことは、「処方せんをスキャンして画像として取り込み、患者登録画面や処方入力画面に表示させることができる」という機能でした。「これを使うと、受付での処方せん入力業務と調剤室での調剤業務が同時にできるようになります。落ち着いた服薬指導ができるようになります、ものすごく便利だと思いました」。

### 色分け表示で見落としチェック、 余裕のある服薬指導ができる。

山本先生は「PharnesⅢ-MX」に慣れるまでに数カ月ほどかかりましたが、慣れてくるとやっぱり替えて良かった、とつくづく思いました」と振り返ります。  
「PharnesⅢ-MX」では、今回処方と過去4回分の処方を横に並列表示することができ、過去の処方内容から新しい処方内容に変更があれば、その部分は色分け表示されます。さらに患者さんのアレルギー情報や禁忌薬なども色分け表示さ

れます。山本先生は、この色分け表示を非常に高く評価しています。

「処方については感覚で覚えていることが多いので、思い込みが強いために変更があっても見落とししてしまうこともあります。しかし、色分け表示されていけば、見落とししたりすることはなくなります。服薬指導をする時にも画面を見ながらいつでも確認し、適正な説明ができますから頼もしい限りです。電子薬歴にしてから、業務がこんなに楽になるのなら、もっと早く導入すればよかった」と笑いながら感想を述べていらっしゃいました。

また、山本先生は「たとえば、患者さんから『お父さんがケガをした』と聞いたこと、ちょっとしたことでも電子薬歴にメモしておくんです。そうすれば、患者さんが次回来局した際に薬歴を見ながら『お父さんのケガは良くなりましたか』と話ができます。患者さんから『そんなことまで覚えてくれてるんだ』と思ってくれたと、信頼感も強くなります。服薬指導をする時って、そういうことが本当はとても大事だと思います」と自分で工夫された電子薬歴の使い方をお話してくださいました。

山本先生にとって、患者さんを「もてなす」ための店舗と電子薬歴は、これからはますます大切なものになることは間違いありません。